

## 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：円山川水系「人と河川との関わりでの保全・再生・創出」～地域との連携～		
水系/河川名：円山川水系/円山川・出石川	河川分類：大河川	
河川の流域面積：1300km <sup>2</sup>	整備計画流量：4600m <sup>3</sup> /s	セグメント：2-1
事業：環境整備	事業開始年度 平成15年度	
目標設定：定性的	段階：D(実施・施工時)	
課題・目的(主な)：貴重種、特定動植物の保全、礫河原、砂州・中州の保全・再生・創出		
工法(主な)：移植、植樹、その他		
配慮事項(主な)：委員会、協議会等の開催、人材育成		

## 背景・課題、目標設定

## ＜背景＞

円山川水系では、平成15年度より総合水系環境整備事業に取り組み、円山川水系自然再生計画(平成17年11月)や円山川水系河川整備計画(平成25年3月)と整合を図りながら自然再生事業を進めています。

事業目的は、「コウノトリと人が共生する環境の再生」をテーマに、多様な生物の生息・生育・繁殖環境の復元を目指すこととしています。また、コウノトリを頂点としたエコロジカルネットワークの保全・再生・創出のために、河川における自然再生の目標のひとつに「人と河川との関わりでの保全・再生・創出」を位置づけています。

## ＜課題＞

- ・順応的、段階的な整備(ハード対策)と合わせた人と河川との関わりでの保全・再生・創出(ソフト対策)
- ・人と河川との関わりに関する具体化項目の取組実施
- ・地域連携、人材育成

## ＜目標＞

- ・取組みの持続化
- ・発展策の提案および情報発信による地域の盛り上がり推進

## 取り組み内容・対策例(1/2)

## ＜アユの産卵場造成実験＞:出石川

近年日本海側のアユの遡上数が激減しています。遡上してきたアユが産卵できる環境を増やし、遡上する自生のアユを増加させることを目的に実施しています。

参加者は国県市、漁協、大学、高校、NPO、工業者などです。

学生が関わることで新聞報道に取り上げられやすくなることもあり、注目を浴びています。



産卵場造成実験の実施



アユの卵

## ＜カワラハハコ保全活動＞:円山川

円山川ではかつて多くのカワラハハコ群落が見られたが、近年減少してきています。

カワラハハコはキク科の多年草で白い花を咲かせます。(兵庫県版レッドリストBランク)

採取した種からポット苗を育て、それを階段上の護岸や河原に移植しており、リスク分散対策(種子確保)として、小学校の校庭などにも移植しています。



採取した種子から育てたポット苗



校庭への移植状

取り組み内容・対策例(2/2)

○加陽湿地(環境費によりH29年度に完成した大規模湿地)をフィールドとした取り組み  
 <フジバカマ保全活動>

円山川下流部に自生していたフジバカマが護岸工事で消失することがわかり、保護して加陽湿地に移植しました。令和元年度に設立された地元関係者の勉強会「フジバカマを育む会」により、観察会や維持管理が実施されています。

<モニタリング調査>

加陽湿地の整備効果を確認するために、モニタリング調査を継続していますが、近隣の小学校の環境学習カリキュラムに組入れることで連携して調査しています。

調査には地元関係者や豊岡市、NPO法人などの協力体制が整ってきています。小学生に網を仕掛けてもらい実際に魚を捕獲して調査しています。



地元によるフジバカマ移植作業



フジバカマに集まるアサギマダラ



モニタリング調査(定置網の回収)

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<アユの産卵場造成実験>これまで産卵が確認されていない箇所でのアユの産卵場を造成した結果、産卵が確認された。下流の産卵場に比べ、推定産卵数は約7倍の約35万個であったことから、アユが産卵しやすい河床づくりができ、効果的であったと推察しています。

<カワラハハコ保全活動、フジバカマ保全活動>移植先では、順調な生育が確認できており、種子を絶やさないためのリスク分散(ソフト対策)が図れている。カワラハハコについては、礫河原への播種を予定しています。

<加陽湿地モニタリング調査>加陽湿地が地元密着型であることから、地元や豊岡市、NPO法人などが協力していただける体制が整ってきています。

<さいごに>

人がどれだけ関わったか、人がどれだけやる気になってくれたかが持続可能な取り組みとなるかどうかの核であるため、引き続き、サポートに徹したいと考えています。



加陽湿地における地域連携による維持管理関係図

備考

問い合わせ先 国土交通省 近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所 調査課  
 電話番号 0796-26-2023